

開会あいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 河原塚 聡

皆様、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました、埼玉県保健医療部副部長の河原塚でございます。

本日、ここに「第10回埼玉輸血フォーラム」がこのような多くの方の御参加のもと、盛大に開催できましたことは、主催者のひとりとして誠に喜ばしい限りです。

このフォーラムの開催に向けてご尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝いたします。

また、本日御参加の皆様には、日頃から本県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、埼玉県の高齢化は全国で最も早いスピードで進んでおります。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に移行する2025年には、121万人に増加すると予想されています。

このような超高齢化社会を迎え、今後医療現場において、血液製剤の需要量の増大に、供給が間に合わない状況になるのではないかと懸念されています。

そこで県では、将来の献血の担い手となる若年層の献血者を確保するため、献血をより身近に感じてもらえるよう、従来のキャンペーンに加え、若者に人気の動画クリエイターを起用した全国初の献血体験動画を昨年7月に配信しました。

この動画は、これまでに89万回以上視聴され、この動画を見て実際に献血に訪れた方もいらっしゃいました。

また、中学生を対象とした献血推進ポスターコンクールや小・中・高等学校等を対象とした「血液に関する出前講座」を開催するなど、様々な啓発事業を積極的に展開しています。

特に、教育委員会等の関係機関と連携して、高等学校における校内献血の推進に力を入れており、

その結果、本県の高中生献血者数は、平成19年度から11年連続日本一となっております。

これは今後も持続すべき、本県が全国に誇れる記録であると知事も常々申しております。

このような取組もあり、埼玉県では、昨年度22万8千人を超える大変多くの方々から尊い献血をいただき、必要とする医療機関に血液を届けることができました。

これも、本日御参加の皆様方をはじめ医療従事者の方々の御協力の賜物であると改めて深く感謝の意を表する次第です。

引き続き、増大する血液需要に応えるべく、御協力を賜りますようお願いいたします。

一方、安定的に血液製剤を確保するためには、医療機関の皆様による、更なる適正な血液製剤の使用に関する取組みが必要不可欠でございます。

本県では、埼玉医科大学病院の池淵先生を始め、県内の医療従事者の方々と組織される埼玉県合同輸血療法委員会で、輸血用血液製剤の安全かつ適正使用について、先進的かつ具体的に御検討、御実践いただいております。

本日のフォーラムでは、この委員会で行われました調査検討に関する報告のほか、パネルディスカッションや教育講演が予定されています。

このフォーラムを通じまして、県内の医療機関における輸血の安全性対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しております。

今後とも732万県民が、必要な時に必要な医療が安心して受けられるよう、引き続き御支援、御協力を賜りますよう重ねてお願いいたします。

結びに、埼玉県合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様の御健勝を祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。